

## 京都府図書館等連絡協議会実務研修会（北部会場） 概要

テーマ・演題： 複合施設の中の図書館について

講師： 李 明喜（り みょんひ）氏  
アカデミック・リソース・ガイド取締役兼 CDO、空間デザイナー

会場： 綾部市図書館（あやテラス内）及び Zoom によるオンライン開催

日時： 令和6年2月2日（金）午後1時30分～3時00分

参加者数： 51人（会場参加24人 オンライン参加27人）

概要： 図書館を含めたさまざまな施設のデザインをしているが、この場合のデザインとは、形を整えるだけではなく、その施設がうまく機能するような仕組みを作ったり、複数の施設や役割を複合・融合させるといったことを行っている。現在の公共図書館の多くは複合施設であることから、図書館単独で考えるのではなく、全体的なデザインを考えることが重要である。

図書館は「知る権利」を守る役割がある。「知る」ことは、ただ情報を収集すること以上に、経験を通じて個人的な理解を深め、私たちの世界観や信念を形成されるもので、人間と物事、人間と環境との相互作用のプロセスと捉えることができる。そう考えると、「知る」環境の豊かさは、本や紙資料、インターネット以外の「外の世界」をより多様にしていくことであり、「知る権利」を守り、「知る自由」を支えることに通じるのではないか。これをふまえると、「ただ一緒になった」複合施設として、図書館とそれ以外という関係性にとどまってしまうのではなく、多様な相互作用を生む環境としてどうつながるのか、どう構成するのか、創造し続ける「外の世界」との融合が必要になってくる。

計画から携わっている「須賀川市民交流センター t e t t e（2019年開館）」を紹介すると、公共機能としての「図書館」「生涯学習と市民活動」「こどもセンター」「円谷英二ミュージアム」に加え、将来地元で開業することをめざすチャレンジショップとして「カフェ」と「ショップ」がある。つながりがない“複合”を超え、まぜ合わせた“融合”を目指したものであり、これを象徴するものが「テーマ配架」である。市民の活動と情報をつなぐことを目的に、①地域・世界を学ぶきっかけに ②十進分類にとらわれない ③紙の本を中心に複数のメディアで構成（モノと本を展示） ④多様な本と本のつながりを生み出す ⑤市民と図書館員の協働により進化し続ける という5つの方針を作り、図書館以外の各フロアに書架を配置した。図書館ではないところに本を置くことで、本をより近く感じられることにつながっている。また施設はただの建物ではなく、地域・街に人の流れを生み出し、賑わいをもたらす機能も期待され計画されたものであり、開館後には、まちなかの営み（例えば近隣の店舗等）とのつながりによって人が集まることになり、都市計画やエリアマネジメントに関連してくる。

「小千谷市ひと・まち・文化共創拠点ホントカ。（2024年9月開館予定）」は、計画段階からすべてオープンにし、過程を見えるようにしてきた。図書館と「郷土資料館」「子育て支援」「交流促進・創造」「カフェ」といった様々な機能による“融合”が、にぎわい・交流・憩いを創出した「新たな日常の場」として、多様な人たちが、多様なまま一つの空間を自分の居場所として使いこなしていく施設をともに作る“共創”につながっている。

図書館が、多様な相互作用を生む環境として、どうつながり、構成し、創造し続けていくのか。それぞれの図書館においても多角的な創造は可能である。ともに「図書館を創る」…“共創”に参加しましょう。